

はた お 機織り

村山大島紬の製作には、専用の高機が使用されました。戦後、機械化が進むまでは、機を織るのは家の女性の仕事でした。染め上がったたて糸とよこ糸、地糸などを組み合わせ、目的の柄を出す技術を身に付けるまでには、若いころから始めて長い時間がかかったといえます。高機は、機屋から貸し出される場合もありました。女性たちは付き合いのある機屋などから仕事を受けて、機織りに精を出しました。



機織りにはげむ女性



縦巻き

たての拵と地糸の柄を合わせて、機で織れるよう巻き上げる。



拵返し

染色の済んだよこ糸を、管巻きできるように一本ずつ分配する。



機織り

たて糸の柄によこ糸を合わせて織るためには熟練した技術が必要とされる。



検査

織り上がった反物を組合で検査して品質を保つ。

村山大島紬の織り方には、諸々、片諸、たて双、よこ双などがあります。いずれの技法もたてよこの拵糸と地糸の組み合わせによって構成されています。この他に、総拵といって地糸を使用せず、たてよこすべて拵糸のみによって織られる技法もみられます。

